

自立活動学習指導案

1 単元（題材）名

「友達の考えを聞き、自分の考えを伝えよう」

2 単元（題材）の目標

- 考えを伝えるときに、相手に聞いてもらえるように話しかけることができる。
- 相手の考えを最後まで聞くことができる。
- 理由を付けて、自分の考えを相手に伝えることができる。
- 最後まで諦めずに課題に取り組むことができる。

3 指導観

(1) この単元（題材）の扱いについて「単元観」

特別支援学校小学部・中学部学習指導要領では自立活動の目標を以下のように定めている。

個々の児童又は生徒が自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達を基盤を培う。

また、自立活動の内容3「人間関係の形成」を次のように定めている。

- (1) 他者とのかかわりの基礎に関すること。
- (2) 他者の意図や感情の理解に関すること。
- (3) 自己の理解と行動の調整に関すること。
- (4) 集団への参加の基礎に関すること。

また、自立活動の内容6「コミュニケーション」を次のように定めている。

- (1) コミュニケーションの基礎的能力に関すること。
- (2) 言語の受容と表出に関すること。
- (3) 言語の形成と活用に関すること。
- (4) コミュニケーション手段の選択と活用に関すること。
- (5) 状況に応じたコミュニケーションに関すること。

本単元では、特に上記の「人間関係の形成」の(4)、「コミュニケーション」の(1)(5)に重点を置き、指導していく。

「集団への参加の基礎に関すること」では、集団の雰囲気に合わせて、集団に参加するための手順やきまりを理解したりして、遊びや集団活動などに積極的に参加できるようにすることを意味している。そのため、教員の説明を聞いたり、手本を見たりし

て、活動の手順やルールを理解し、主体的に集団活動に参加できる指導をしていく。

「コミュニケーションの基礎的能力に関すること」「状況に応じたコミュニケーションに関すること」では、意思のやりとりといったコミュニケーションに必要な基礎的な能力を身に付けたり、場や相手の状況に応じて、主体的にコミュニケーションを展開できたりすることを意味している。そのため、友達と考えを伝え合うことを実践できるように指導をしていく。必要であれば、話型を示すようにもしていく。

(2) 児童の実態について「児童観」

本グループは2年生2名（児童 A・B）、4年生1名（児童 C）の3名グループである。児童 A は注意力が持続しにくく、話を最後まで聞くことが難しい。そのため、課題を理解できていないことが多くなる。理解できていないと活動自体を行おうとしないこともある。児童 B は不安や緊張が強く、新規の活動に対しては主体的に行動をしないことが多い。また、うまくできていないと感じると、泣いて、活動を途中で投げ出してしまうことがある。児童 C は注意が散漫で、話を最後まで聞かずに行動してしまうことが多い。手順やきまりを理解しないまま活動をしてしまうため、失敗することがある。また、児童 A, B, C に共通した課題としては、他者意識の低さが挙げられる。

本時には参加していないが、本グループにはもう一人、児童 D がいる。児童 D は、4年生の時は自分がうまくできていないと感じると、友達に暴力をふるったり、活動を投げ出してしまうたりすることが多かった。5年生になってからは落ち着いて過ごすことが増え、小集団活動においても下級生を上手に引っ張っていくことができるようになった。その反面、話し合い活動では、児童 D が話を決めていくので、児童 A, B, C の発言が少なくなるという影響があった。児童 D は、6年生から退級予定で通級での授業数を段階的に減らしているため、3学期での小集団活動は児童 D を除く3名で行うことが多くなった。だからこそ、今回は、児童 A, B, C の3名で上手に話し合って目標を達成する経験ができることをねらった単元を設定した。

(3) 教材の活用について「教材観」

集団生活をする上で、友達と話し合い、まとめたことをもとに協力して行動する場面は自然と多くなる。しかし、本グループの児童は、話し合いの場で自分の考えを話したり、友達の考えを意識的に聞こうとしたりすることが少なく、「友達と協力する」という経験が不足している。これまで、友達と話し合っただけで作戦を立て、積み木をしたり、風船バレーをしたりする活動を意図的に取り入れて学習を進めてきた。

本単元では、「動物の住むマンション」の活動を通して、ヒントをもとに友達と話し合い、協力して答えを一緒に考えていく場面を設定する。始めは、活動のきまりや手順を教員が手本を見せながら示し、ルールを理解させる。簡単な問題から始めていき、自信を付けた上で段階的に問題を難しくしていく。話し合いでは、教師は話型だけを示し、

児童だけで課題を解決させていく経験を積ませる。話し合いを成立させるためには、自分で考えを話したり、説得力をもたせるために理由を述べたり、友達の考えを聞いたりしなければいけないということと、その大切さに、活動を通して気付かせていきたい。

4 年間計画における位置づけ（ユニバーサルデザインも考慮）

本グループでは、4月～6月には、集団生活において必要な「上手な話の聞き方」や「上手な話し方・質問の仕方」を学習してきた。また、7月には「自分の感情への気付き」に取り組み、表情絵を用いて自分の気持ちを言葉で表現することを学んだ。9月、10月では1学期に学んだことの発展として、ペアになり、上手に話し合って作戦を立てる活動（「上手な会話の仕方①」）を行った。11月には「自分の感覚への気付き」、12月には「自他の感覚への気付き」に取り組み、人それぞれに得意や苦手があることを学んだ。

本単元では、グループ全体での話し合い活動を通し、実践的なコミュニケーションを可能なかぎり児童だけで行わせ、考えを上手にまとめるためには、どのように話し合えばよいかを学ばせていく。

4月 5月	上手な話の聞き方 ・自己紹介 ・聞いて作業をする	11月	自分の感覚への気付きと表現 ・得意、苦手を知る
6月	上手な話し方、質問の仕方 ・指示してゴールを目指す ・伝えて神経衰弱	12月	自他の感覚への気付きと表現 ・答えを予想して合わせよう
7月	自分の感情への気付きと表現 ・気持ちを言葉で伝えよう	1月	上手な会話の仕方② ・話し合い活動 ・動物マッシュクイズ(本時)
9月 10月	上手な会話の仕方② ・作戦づくり ・積み木、風船バレー	2月 3月	1年間のふりかえり ・自己評価 ・他者評価

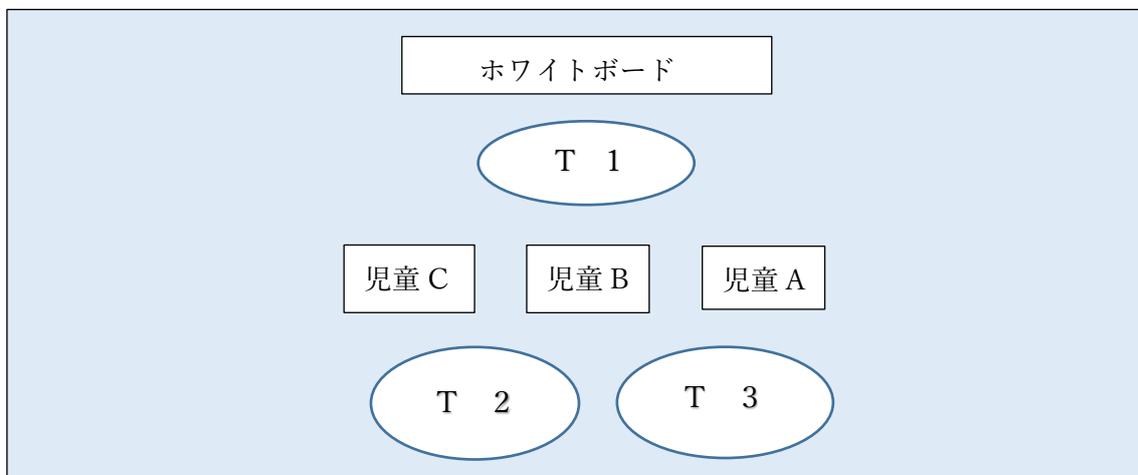
5 単元の指導計画

	重点をおくねらい	学習活動
第一時	<ul style="list-style-type: none"> 動物マンションクイズのやり方を理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 練習を交えてやり方を覚える。 2階建てのクイズをする。 (4部屋) 児童だけで話し合って答えを考える。 ふりかえりをする。
第二時	<ul style="list-style-type: none"> ヒントカードを用いて自分の考えと理由を伝えることができる。 相手の考えを最後まで聞くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教員の手本を見る。 2階建てのクイズをする。 (6部屋) 考えと理由の話型を参考にして、話し合い活動をする。 ふりかえりをする。
第三時	<ul style="list-style-type: none"> ヒントカードを用いて自分の考えと理由を伝えることができる。 相手の考えに対して、上手に返答をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 3階建てのクイズをする。 (9部屋) 考えと理由の言い方、また返答の仕方の話型を参考にして、話し合い活動をする。 ふりかえりをする。
第四時 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ヒントカードを用いて自分の考えと理由を伝えることができる。 相手の考えに対して、上手に返答をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 3階建てのクイズをする。 (9部屋、前時よりも難易度を上げる。) 考えと理由の言い方、また返答の仕方の話型を参考にして、話し合い活動をする。 ふりかえりをする。

【ユニバーサルデザインとの関連】

- ・授業の始めに活動内容を板書し、見通しをもたせることで、不安感や緊張感を軽減する。
- ・事前に教員が手本を見せ、活動のルールを理解させる。
- ・簡単な内容から活動を始めていき、スモールステップで話し合いの能力を高める。

6 配置図



7 指導にあたって（指導の工夫）

- ・意見と理由の言い方の話型をホワイトボードに掲示し、発言しやすい環境を作る。
- ・T 1 は児童の話し合いの進行を円滑にするため、ホワイトボードの話型だけでなく、「ねえ、聞いて」「いいよ」という話型も吹き出しのような形で示す。
- ・児童だけで考えをまとめるのが難しい場合は「ヘルプカード」を活用する
- ・最後まで相手の話を聞くことを板書に示す。
- ・ふりかえりの時間に、活動の具体的な場面を教員が評価し、児童の自己評価を高める。

8 本時の目標（全4時間中の4時間目）

(1) 本時の目標

- 考えを伝えるときに、相手に聞いてもらえるように話しかけることができる。
- 相手の考えを最後まで聞くことができる。
- 理由を付けて、自分の考えを相手に伝えることができる。
- 最後まで諦めずに課題に取り組むことができる。

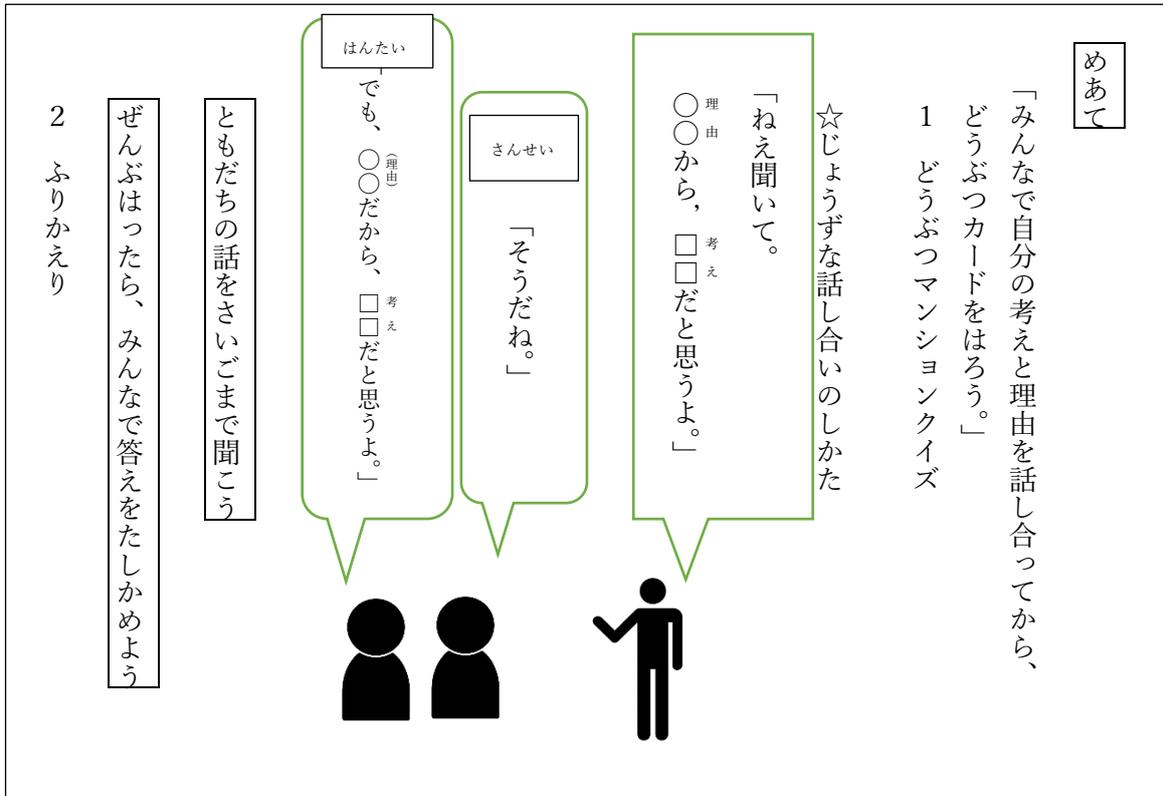
(2) 本時の展開

時間	主な学習活動・内容	○指導上の留意点 ◎配慮事項
導入 (5分)	1 始まりの挨拶をし、本時の活動内容を確認する。 ・前時で学習したことを振り返る。 ・本時の活動内容を知る。 ・めあてを確認する。	○授業の始めに活動の流れを板書しておく、見通しをもたせる。 ○筆箱は活動で使用しないので、机の中に入れてさせる。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> めあて「みんなで自分の考えと理由を話し合ってから、動物カードをはろう。」 </div>	

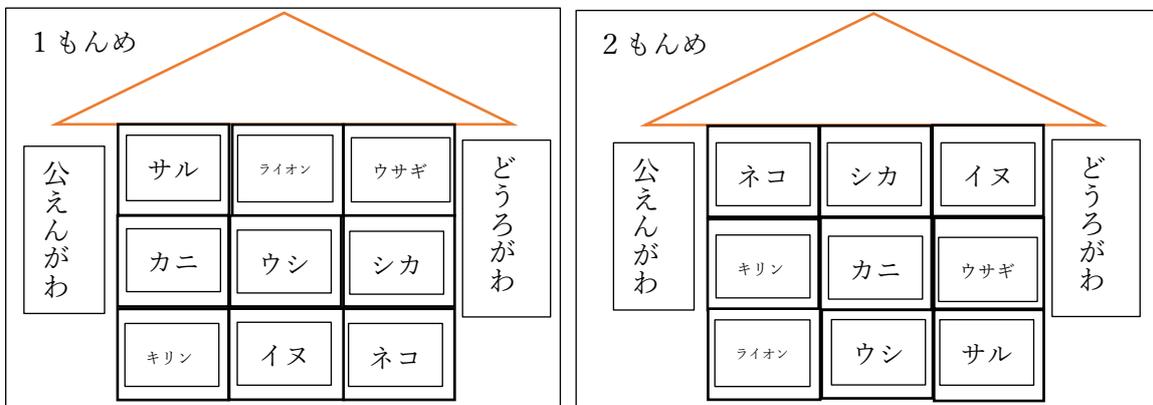
<p>展開 (20分)</p>	<p>2 「動物マンションクイズ」を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員の手本を見る。 ・机に重ねて置かれたヒントカードを1人ずつめくり、めくった人は「ねえ、聞いて。」と言い、ヒントカードを読み上げる。 ・話型を参考にし、理由を付けて自分の考えを伝えたり、相手の考えを聞いたりして答えを考える。 ・答えが決まったら、最後の確認をする。 ・児童だけで考えがまとまらないと感じたら、ヘルプカードを使うことができる。 ・1問目がスムーズに終わった場合は2問目を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○AT が上手な話し合いの仕方を児童に見せる。 ○正解できなかったり、話し合いが上手くいかなくても途中で泣いたり逃げたりしないことを確認する。 ○最後まで友達の話聞くことを伝え、板書にも示す。 ○ホワイトボードに上手な話し合い方の話型を示す。 ◎ヒントカードを見合える場所を確保する。 ○児童の話し合いが円滑に進むように、T1は「ねえ、聞いて。」「いいよ。」という吹き出しのカードを児童に提示する。 ○児童が考えを整理しやすくするために、ヒントカードを“まだ考え中ゾーン”、“OK ゾーン”、“確認済みゾーン”に分けさせる。 ○「ねえ、聞いて。」「いいよ。」と児童が言えたら、AT はガラス瓶に金貨を1枚ずつ貯めていく。 ◎児童Bが活動の途中で泣いたり、教室の隅に逃げてしまったりした場合は、児童が活動に戻れるようにT1, AT が声掛けする。
<p>まとめ (5分)</p>	<p>3 本時の活動を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うまくできたことを発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○T1 はめあてに照らしてできたことを評価し、伝える。 ○AT は児童の良かった様子を具体的な場面から評価し、伝える。

※AT=T2・T3

(3) 板書計画【メインのホワイトボード】



【サブのホワイトボード（動物の名前にはイラストカードが入る）】



○動物マンションクイズ問題

1 問目のヒントカードの内容

- ・ウサギの隣にはライオンが住んでいます。
- ・ライオンの隣にはサルが住んでいます。
- ・サルは一番上の公園側の部屋に住んでいます。
- ・カニの上の部屋にはサルが住んでいます。
- ・ウシの隣はカニとシカが住んでいます。
- ・シカの下は部屋はネコが住んでいます。

- ・ネコは道路側に住んでいます。
- ・イヌの隣にはキリンが住んでいます。
- ・キリンの上の部屋にはカニが住んでいます。

2 問目のヒントカードの内容（時間に余裕があった場合に行う。）

- ・ライオンは公園側の一番下の部屋に住んでいます。
- ・ウシの隣にはライオンとサルが住んでいます。
- ・キリンの下の部屋にはライオンが住んでいます。
- ・カニの隣にはキリンとウサギが住んでいます。
- ・シカの下部屋にはカニが住んでいます。
- ・ネコは公園側の一番上の部屋に住んでいます。
- ・ウサギの上の部屋にはイヌが住んでいます。

○提示用吹き出しカード

